

『ありがとうメッセージ』の紹介

令和元年度

【ボランティア】



☆ 「季節の折り紙」

今年も活動費をありがとう御座居ます。会員皆、大好きな折り紙でボランティアが出来るのをうれしく思っています。介護施設の方々、各地区の方々、皆さん作品が出来上がるとよろこんで頂けます。ボランティア保険にも使わせて頂いています。これからも安全に気を付けて、楽しくボランティアをして行きたいと思っています。コロナが早く終息する事を祈っています。皆で大切にに使わせて頂きます。

☆ 「聞き書き隊こもろ」

お陰様で第5号「人生の物語を言葉にのせて」発刊の運びとなりました。会員8名で頑張っております。聞き書きの力は個々によって差があり、めげることもあります。 「話を聞いてもらい有り難う」など言われますと、「やった！」喜びは半端じゃないです。今年度も小諸市共同募金委員会の配分金を頂き感謝しております。ボラセンにて第4土曜日に定例会開催。活動して下さる方、話して下さる方、募集中です。

☆ 「おもちゃなおし隊こもろ」

今年もおかげさまで活動を続けることができました。継続できたことは赤い羽根共同募金から補助金をいただけたからだと思っています。本当にありがとうございました。今年は子どもセンターの駐車場の関係で行事がなくなってしまったことが残念でした。それ以外はほぼ予定した活動は実施できました。これも子供たちの笑顔とお母さんの感謝の言葉、そして楽しい仲間とのチームワークのたまものだと思います。

今年も月2回の定例修理の継続、子どもセンター、児童館、各種団体からの行事参加の要請には可能な限り応えて行きたいと思っています。病院協会の研修会等に参加し、修理技術の向上にも努めて行きます。引き続きこの活動を通じ、物を大切に作る心や、物を作る喜びを感じ、強いては地球環境の保全につながっていければと思っています。会員の高齢化が顕著です。若い人の参加を願っています。毎月第3水曜日の午前「子どもセンター」及び第4土曜日の午後「ボラセンこもろ」へお出かけ下さい。

☆ 朗読「わ」の会

私たち朗読「わ」の会は、「ボランティア・市民活動育成費」をいただき、図書館・高齢者施設等における読み聞かせ、夏の子供向け朗読会。そして、小諸児童文学の会が発刊した「むかしの話・小諸の民話」を語り続けていくことを中心に活動することができました。また、去年は、野岸小学校4年生の民話の学習のお手伝いもさせていただき活動の輪が広がっていくのを感じています。本当にありがとうございました。今後も、皆さんの心に届く朗読ができるよう勉強していきますので、どうぞよろしく願いいたします。

☆ 歌声「ひまなスターズ」

私たちは「歌声ひまなスターズ」と申します。交流センターでの定期歌声活動「歌のさんぽみち」ほか、市内各地区や福祉施設へ歌声ボランティアで駆けつけております。会場では童謡、唱歌、歌謡曲、民謡、フォークなど幅広いジャンルの歌をみんなで歌います。ストレス解消に役立った、楽しかった、元気が出たと参加者に喜ばれています。助成金はボラ活動に必要な備品、消耗品の購入に役立てています。大変助かります。深くお礼を申し上げます。

☆ 「ユカレレの会」

「よかったヨ」「ありがとネ」「また来てネ」と利用者さん。「こちらこそ、ありがとうございます」とー。趣味を通して出逢える縁、喜び、楽しさ、どなたかに喜んでもらえるようにと願ってボランティアしております。向上を目指して、勉強、練習を重ね頑張っています。

活動資金として育成費活用させていただきます。本当にありがとうございました。感謝しています。

☆ 「信州子ども食堂 in こもろ実行委員会」

2016年2月より地域の3世代交流による子ども達の身近な居場所づくりの場として原則月1回第4土曜日午前9時から午後1時まで地区公民館で「子ども食堂」を始めました。2020年で5年目になりました。で、子どもは無料、大人は200円で食事を共に作り、食べ、3世代のコミュニケーションをとり、食事の楽しさ、大切さを学ぶことができます。食事作りの前には、各自宿題を持ち寄り、高校生が教える学習支援も実施しています。

またこれとは別に毎月1・3火曜日の5時30分から8時30分まで「小諸図書館」2階交流センターで小・中学生を対象に高校生が教える学習の場づくりも行っています。活動する中で、食材費、会場費等は毎月かなりの費用が掛かります。今回も食材・調味料等の出費に沢山の活動育成費を頂き大変助かっております。

メニューも季節感を出し、出来るだけ地元産品を使い、食前に今日の食材についての説明をして、子ども達に地域を知る取り組みも意識して行っています。また農家の方も講師としてお願いし、お話を聞く機会も年に数回行っています。

これからもこの輪が更に大きくなるよう頑張ります。長野県共同募金小諸市共同募金委員会様、本当にありがとうございました。頂きましたボランティア・市民活動育成費は大切にに使わせて頂いております。



☆ 「サンサンインベーターズ」

令和2年度 共同募金事業「ボランティア・市民活動育成費」を頂けることになり、誠にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルスで、活動を奪われ残念でなりません。活動先で喜びを与え楽しさも与え、自分達も若さを頂き、楽しさ、嬉しさを頂いております。スタッフ一同、出合いを大切に、少しでもお役に立ちたいと活動しております。今後共宜しく御指導の程お願いします。

☆ 「ふれあいレターの会」

2月頃からはじまった「新型コロナウイルス感染拡大」の心配は、最初のうちはあまり気にならなかったが、日をおうごとに身のまわりにいつもつきまとうようになってしまいました。地域での交流会やマレットなどの運動等の自粛、通院さえもおそるおそるという感じです。ましてや、おひとりで暮らしていらっしゃる高齢の方々の不安と困惑はいかばかりかと想像します。そんな大変な暮らしが一枚のはがきでどうこうできるわけありませんが、それでもほんの一瞬でも気分転換につながったらとの思いでがんばって、おたよりに書いています。書くことが私達自身の気分転換にもなります。

いつも本当に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。この災禍が一日も早く落ちつきますように。そして今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

☆ 「フクシマの子どもサマーキャンプサポート隊」

9年前の3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質は自然やいきものの全てに降り注ぎました。初期被爆や内部被爆で大勢の人が健康不安を抱えています。

私たちは、放射性物質から離れる、外遊びや自然遊びを経験する、リフレッシュする事を目的にフクシマの子どもサマーキャンプを実施しています。今年は、野鳥の森・みはらし交流館での自然体験、ジャガイモ堀り等を予定しています。頂いた募金箱は有効に使わせていただきます。



☆ 「レインボークローバー」

今年度も赤い羽根共同募金の配分をありがとうございました。レインボークローバーも発足をして9年が経とうとしています。我々の活動がこんなに続いたのも、この募金のお蔭と感謝しています。

我々は、自分たちの活動が自分たちだけのものではない事を実感しています。他の団体とのコラボも今年度もいくつか成功してきました。一つは、「かっくんは、発達障害です。我々は、発達障害の理解を広める活動をしています。応援してください。」を、赤い羽根共同募金の配分金で作成したパンフレットやポスターを見た方・・・例えば、この発達障害の理解を広げようとしている佐久市の家庭から「勇気を頂きました。」とか、ダウン症の二十歳の女性の踊る「花は咲く」のコラボは、観客の涙を誘う出来事でした。「天然せっけん」で有名な「ねば塾」との友好関係など、今年も多くの方との出会いがありました。かっくんの言うように「出会いは宝物」まさにそれを実現しています。ボランティア活動やハーモニカの演奏会活動も920回を超えました。これも、ひとえにず～と聞いてくださった方の応援のたまものです。しかし、これだけ必要とされている場所が多いと言う事です。まだまだ、届けなければいけない所、待っている所があると思っています。応援してもらわなければ、生きていけない人たちが、応援してくれる人の気持ちを判るために、この活動をしている。ボランティアは、与えるものではなくて、「与えられるもの」だという事に気が付いた・・・その事は、なかなか説明しにくい事なのですが、・・・これからも。我々の活動が『赤い羽根共同募金』において支えられていることをおおいに宣伝し、理解と協力を広めていける、そんな活動を続けていきますので、これからも、応援を宜しくお願いします。

今年の大きな成果は、栄村の避難されている方の前で10回も演奏が出来た事です。被害にあわれた方の苦勞を思うと僕の音色が少しでも役に立てばうれしいです。でも、少しでも我々の声が届いて、元気が出ればそれで良いです。早く、元の当たり前の日常に戻ることを祈っています。『ハーモニカの音色に乗せて・・・』



本当にありがとうございました。